



埋文だより

第53号

平成22年10月20日発行



速報!
鎮守山遺跡

古墳時代の住居跡発見!

鎮守山遺跡（鹿屋市古里町）では、平成21・22年度の調査で古墳時代の竪穴住居跡が21軒見つけられました。写真は、今年7月の調査で発見された4軒の竪穴住居跡です。3軒は、各々の一部が重なり合っており、中から出土した土器の時期と住居の重なり具合から判断して、古い順に①右→②真ん中→③左という順番で建てられていたことが分かりました。また、右側の住居跡は花びらのような形をしていることから、花卉形住居跡と呼ばれています。

目次

- ・ 速報！鎮守山遺跡 1
- ・ まだまだ注目！ 発掘現場 2
- ・ シリーズ埋文豆知識⑫
「土師器と須恵器の違いは？」 3
- ・ ふれる・感じる・体験する～考古学の世界～ ... 4・5
- ・ 世界遺産登録をめざして
九州・山口近代化産業遺産群発掘調査
地域が育む「かごしまの教育」県民週間 6



花卉形住居跡

まだまだ注目

今年度も県内各地で発掘調査を行っています。ここでは、3つの遺跡の最新の状況と成果の一部を紹介します。



① 宮ヶ原遺跡 (曾於市大隅町)

宮ヶ原遺跡は、東九州自動車道建設に伴って、発掘調査を行いました。現在の県道の下から、江戸時代以降のものとみられる道跡が6層重なって見つかりました。道幅は、30～150cm。長さも地山を深さ1m程度掘りこんだ形状で、120m以上続いていました。道跡を埋めていた土砂からは、薩摩焼や煙管（キセル）など、当時の人々が使用した遺物が出土し、江戸時代から現代まで、道路として使われていることが分かりました。近くにはなげたに はちまん ぐう投谷八幡宮があり、お参りに訪れる人も通ったことでしょう。



道跡



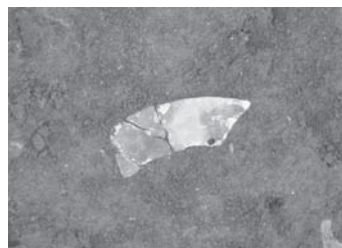
断面

発掘

現場

② 下鶴遺跡 (伊佐市大口下殿)

昨年度に引き続き発掘調査を行い、弥生時代のお墓と考えられる土坑や古墳時代の住居跡が多数発見されました。お墓と考えられる穴の近くでは、弥生時代の壺が埋められていましたが、骨を入れて埋葬した壺棺と思われる。また、青銅製の鏡を意図的に割って穴を開けた「破鏡」が出土しました。破鏡は権力の象徴としてペンダントに用いられたと考えられています。昨年度発見された「銅戈」とともに、当時の有力者の存在をうかがわせる発見となりました。



破鏡



埋められた土器

③ 上新田遺跡 (薩摩川内市青山町)



石列と掘立柱建物跡 (右上)

上新田遺跡は、南九州西回り自動車道建設に伴って、発掘調査を行いました。特に注目されるのが、写真のような石列です。二間五間の掘立柱建物跡を囲むように、「コ」の字状に石を積み、並べてあります。造成地の土止めや土地の区画をするために築かれたと考えられます。時代については、出土した遺物から、古代以降に造られたものと考えられます。

埋文豆知識 ⑫

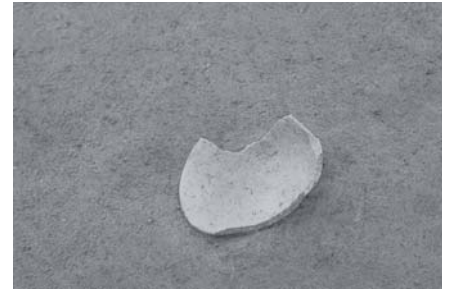
「土師器」「須恵器」違いは？

「土師器」と「須恵器」，まずこのふたつは何と読むのでしょうか。「土師器=はじき」と「須恵器=すえき」です。

どちらも粘土をこねて形を作り，焼き上げる「土器」の流れを汲むものですが，大きな違いがあります。それは・・・

はじき 土師器とは

我が国で土器が作られ始めるのは約15,000年前（縄文時代草創期）ですが，土器は野外で焚火をするようにして焼かれていました。それを「野焼き」といいます。その後の縄文土器，弥生土器も同じように野焼きで作られてきました。古墳時代から古代になるとほぼ全国的に同じような土器が作られ始めますが，それらを作る集団を土師部（はじべ）と呼ぶことから，土師器と呼ばれるようになりました。土師器も野焼きで作られるため，軟質で，赤っぽい色をしています。煮炊きをするための甕や小型の坏・埴・皿等が作られています。内側が黒いものや墨で文字が書かれたものもあります。



土師器の出土状況（柿木段遺跡）



土師器（坏）（柿木段遺跡）



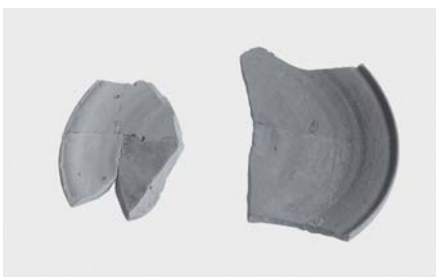
土師器（甕）（狩俣遺跡）

すえき 須恵器とは

須恵器（すえき）は，古墳時代から中世まで生産され，一般的に灰色で硬いものです。同時期の土師器とは色と質で簡単に

区別できます。それまでの野焼きで焼く方法ではなく，

5世紀に朝鮮半島南部から伝わった「登り窯」を使って焼く方法で作られます。高温で焼くために硬く焼きしまり，実用品として見た場合，須恵器の方が品質的に上であったようです。特徴的な灰色は，粘土の中の鉄の成分が変化して現れる色です。



須恵器（甕・蓋）（梶城跡）



	土師器	須恵器
色	赤っぽい	灰色
硬さ	軟質	硬質
焼き方	野焼き	登り窯で焼く
焼く温度	600~800度	1,100度以上

ふれる・感じる・体験する～考古学の世界～

埋蔵文化財センターでは、発掘調査で得られた「本物」の土器や石器を用いて、子どもたちに授業を行ったり、先生方に研修を行うなどの活動も行っています。

まいぶん出前授業 フレッシュ研修 パワーアップ研修

本年度から実施している「まいぶん出前授業」。学校に埋蔵文化財センターの職員が出向き、教室に「本物」の土器や石器を持ち込んで授業します。子どもたちは本物の土器や石器に触って大興奮！「すごい！」とか「おもしろい！」とか、子どもたちの目がきらきらと輝きました。これまで17校で実施しています。

また、「フレッシュ研修」や「パワーアップ研修」など、先生方のスキルアップのための研修も行いました。講義の他に発掘実習・体験活動などもあり、楽しく貴重な体験を授業に活かしていきたいとの感想が聞かれました。



総合教育センター 「埋蔵文化財 活用講座」

県総合教育センターで行われている教職員向けの土曜講座において、埋蔵文化財を活用した学習方法についての研修を行いました。5・6月の3回の講座に合計33名の参加者がありました。教科指導だけでなく、文化財を身近に考える機会ともなったようです。



県民大学連携講座 おまかせ！ 夏休み自由研究

7月27日に、「かごしま県民大学連携講座」の第1回として、小・中学生を対象に「おまかせ！夏休み自由研究『かごしまの大昔』」を県民交流センターで行いました。子どもたちは鹿児島の大昔の暮らしを学ぶ中から「どうしてだろう？」「もう少し調べてみたいな」という疑問を持ち、夏休みの自由研究として取り組んでみたいと話していました。第2回は10月22日に開催され、第3回は2月26日を予定しています。

◎第3回のご案内

「9,500年前のムラに生きた人びと」

2月26日(土) 13:30～15:00

対象：一般 50名

会場：かごしま県民交流センター

申込み先：上野原縄文の森

電話：0995-48-5701



発掘現場に ようこそ！

8月3日、霧島市文化財少年団と鹿屋市文化財ウォッチングの発掘体験を鹿屋市の田原迫ノ上・立小野堀遺跡で実施しました。同様に、8月24日、薩摩川内市文化財少年団の発掘体験を薩摩川内市の山口遺跡で行いました。土器を掘りあてて大喜ぶ姿や、火おこし体験では、四苦八苦する姿が見受けられました。



県下各地の発掘現場では、地層の観察や発掘体験など、いろいろな学習ができます。近くの発掘現場で、見学や体験をしてみませんか。(埋蔵文化財センターまでお問い合わせ下さい)

職場体験学習 インターンシップ

7月から9月にかけて、職場体験やインターンシップが行われ、鹿児島第一中学校、国分高校、鹿児島大学他の生徒や大学生が、当センターの業務を体験しました。土器の水洗いから文様を写し取る拓本作業、また、報告書に掲載する写真の撮影方法や木器や鉄器の保存処理など、仕事の大切さ・大変さを経験するとともに、埋蔵文化財に関心を持ってもらうよい機会となりました。



埋蔵文化財専門職員 養成講座 初級・中級講座

7月5日～7日の3日間、発掘調査や報告書作成の技術向上を目的とし、市町村文化財専門職員対象の埋蔵文化財専門職員養成講座中級講座を、8月17日・18日には、一般職の市町村職員を対象の初級講座を実施しました。中級講座では、発掘調査の最新情報やデジタルデータの保存方法、鉄器・木製品の保存処理の基礎や体験活動の準備と方法など、より実践的な講義や実習があり、活発な意見交換も行われました。両講座とも埋蔵文化財活用のヒントを得る機会にもなったようです。



世界遺産登録をめざして ～近代化産業遺産群発掘調査～

九州・山口地域に数多く残る近代化産業遺産が、幕末期の西洋技術の導入やその後の近代工業化の過程を明らかに示すものとして、世界的に高い価値があると評価され、平成21年1月5日にユネスコの世界遺産暫定一覧表に追加記載されました。そこで、鹿児島県では、世界遺産登録に向けて、県内に残る近代化産業遺産の発掘調査を行っています。

5月～7月に調査した鹿児島紡績所跡（鹿児島市）では、建物の基礎と思われる石組を発見しました。また、6月26日には、遺跡の現地説明会を実施したところ、あいにくの雨模様の中、150人の見学者が訪れ、担当者の説明を熱心に聴き、世界遺産登録に向けて意義あるものとして認識を深めていました。



現地説明会の様子

【今後の調査予定】

- 祇園之洲砲台跡（鹿児島市）：調査期間 平成22年9月9日（木）～平成22年11月26日（金）
- 天保山砲台跡（鹿児島市）：調査期間 平成23年1月～3月

地域が育む「かごしまの教育」県民週間 関連行事のご案内

当センターでは、「かごしまの教育」県民週間に伴い、下記のとおり、2か所で遺跡の現地説明会を行います。また、上野原縄文の森との共催事業として、10月30日に企画展講演会も行います。ご家族やお友達とお誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

ぎおんのす 祇園之洲砲台跡（鹿児島市石橋公園隣）

日時：11月6日（土）

- 1回目 10：00～12：00
- 2回目 14：00～16：00

内容：砲台跡の概要説明や、発掘調査で発見された遺構や遺物を紹介。

発掘調査事務所 099-247-6266

たちおのぼり・たはらぎのうえ 立小野堀・田原迫ノ上遺跡（鹿屋市申良町）

日時：12月4日（土）

- 1回目 10：00～12：00
- 2回目 14：00～16：00

内容：古墳時代に作られた地下式横穴墓や、弥生時代の集落跡などの紹介と発掘体験。

発掘調査事務所 0994-62-3751

第28回縄文の森企画展講演会

「新発見！かごしまの遺跡2010
～県立埋蔵文化財センター発掘速報展～」

演題：発掘調査の成果報告

内容：埋蔵文化財センター職員による遺跡紹介・遺物の説明ほか

- ① 下鶴遺跡（伊佐市）
- ② 定塚遺跡（曾於市）

日時：10月30日（土）
13：30 ～ 15：00

場所：展示館1階多目的ルーム

県内初出土の銅戈（下鶴遺跡）

当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

なお、当センターのホームページは、鹿児島県教育委員会 (<http://www.pref.kagoshima.jp/kyoiku/>) または、上野原縄文の森 (<http://www.jomon-no-mori.jp/>) からお入りください。

検索キーワード

埋文だより 第53号

発行日 平成22年10月20日
編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市
国分上野原縄文の森2番1号
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
URL: <http://www.jomon-no-mori.jp>
E-mail: maibun@jomon-no-mori.jp